

『立正安国論』に学ぶ

共栄部 浜島 典彦

はじめに

日蓮聖人の価値観を集約した『立正安国論』（文応元年七月一六日）

旅客来りて嘆いて曰く、近年より近日に至るまで、天変（てんぺん）・地

天（ちよう）・飢饉・疫癘（えきれい）、遍（あまね）く天下に満ち、広

く地上に迸（はびこ）る。牛馬瓜（ぎゆうばちまた）に斃（たお）れ、

骸骨路（がいこつみち）に充てり。死を招くの輩（ともがら）、すでに大

半に超（こ）え、これを悲しまざるの族（やから）、あえて一人もなし。

※上原専禄先生（一橋大学長 歴史学者 一八九九—一九七五 『死者・

生者——日蓮認識への発想と視点』）

※『守護国家論』 ※正嘉元年（一二七五）八月大地震

一、『立正安国論』の評価

・日蓮宗の歴史における評価

殊に幕末から明治期 そして近代・現代

※優陀那日輝和上 その門下 『充洽園礼誦儀記』

※矢内原忠雄氏と戸頃重基氏の評価

※『中央公論』統計結果（二一世紀に遺したい書籍）※読売新聞

二、七月十六日という日について

・聖日を大切にされた日蓮聖人（八日、二十四日）

・懺悔滅罪の構造（一日と十五日、七月十五日）

・孟蘭盆会（西暦538年 建康（南京市））

目連尊者十中元（道教）十布薩の日・・・翌日

※印度・中国・日本の仏教は違う（融合）

三、『立正安国論』の述作の理由と背後にある思想

・冒頭の文章（定遺二〇九頁） 『安国論奥書』（定遺四四二—三頁）

『安国論御勘由来』（定遺四二二頁）

・神天上法門と一念三千（一念と三千との関わり）

◎一念三千

※十如是・・・法華経方便品

※三世間・・・大智度論

※十界・・・華嚴経十地品 「十界互具よりこと生まれり」『開目抄』

四、『立正安国論』の内容について

・文応元年（一二六〇）七月十六日奏進 三九歳

・私的勘文 ※文章博士もんじょう 陰陽師

三証（現証・理証・文証）

現証・・・第一番問答の旅客の言葉

理証・・・神天上法門・一念三千の法門

文証・・・金光明経・大集経・仁王経・薬師経等（爾前経）

・法然批判 渡邊寶陽先生の言

※「捨・閉・閣・抛」と「改」 ※成仏と往生

◎十段落 九問九答一領解（十問九答）の問答旅客と庵主の内容 ※コ

ピーライター or 脚本家 ※大学三郎のアドバイスと安達泰盛

・自問自答について

・「蒼蠅」「碧蘿」という言葉について

※（六番問答の答）「予、少量たりといえども、忝なくも大乘を学す……」

【十分で分かる『立正安国論』】

《第一番問答》序論（嘆いて曰く）（曰く）

災難の現状を述べ、その由来を問う。その由来について答える。

《第二番問答》序論（曰く）（曰く）

災難由来の経文証拠（経証）を求める。それに対し、経証を提示する。

金光明経・大集経・仁王経・薬師経（七難 他国侵逼難・自界叛逆難）

《第三番問答》序論（色をなして曰く）（喩して曰く）

仏教隆盛の状況を述べる。これに対し悪侶の存在、謗法の事実を示す。

仁王経・涅槃経・法華経（勸持品）

《第四番問答》序論（憤りて曰く）（曰く）

具体的な悪侶の存在を求める。謗法の僧法然の存在を明かす。

『撰択本願念仏集』「捨・閉・閣・抛」

無量寿経四十八願中第十八願「唯除五逆誹謗正法」の誓文

法華経譬喻品「若人不信毀謗此経乃至其人命終 入阿鼻地獄」の誠文

《第五番問答》序論（殊に色をなして曰く）（咲み、止めて曰く）

法然の偉大なることを述べ、謗法を疑う。先例をあげて災難の由来を

述べ、謗者と正師を弁えるように促す。

「微前しほしに顛れ、災後に致る」

《第六番問答》序論（聊か和ぎて曰く）（曰く）

勘状の必要性を問う。これに対し、謙りながら勘文奏進の必要性を説

く。「蒼蠅」「碧蘿」

《第七番問答》序論（和ぎて曰く）（曰く）

災難を止める対策を問う。これに対し国中の謗法を断つことがその対策となると答える。

「法因人而貴」「先祈国家須立仏法」 涅槃經・仁王經

《第八番問答》序論（曰く）（曰く）

謗法の輩を断ずるには、斬罪に処すのかと問う。これに対し、謗法をにくむのであつて止施の方策を勧めると答える。

不受不施派の展開 谷中感応寺 ※撰折の問題

「夫れ、釈迦の以前の仏教は、其の罪を斬ると雖も、能忍の以後の経説は、則ち其の施を止む」 大集經

《第九番問答》本論（席を避け、襟を刷いて曰く）（悦んで曰く）

旅客は襟を正し、庵主の止施の主張に納得する。庵主は更に 正法に帰依することを勧める。

有名な「汝、早く信仰の寸心……」の文章が答にある。

薬師經の二難 大集經の一災（兵革の災） 金光明經（他方怨賊・国内侵掠）の予見

《第十番領解》結論（曰く）

旅客は遂に領解し、唯自身一人のみが信仰するばかりでなく、他人の誤りを正すことを誓う。

◎『立正安国論』のキーワード

※謗法の罪・・・懺悔滅罪

「仏子を禁むるにあらず。唯偏に謗法を悪むなり。」（第八番問答の答）

・ 罪意識 『顯仏未来記』（日蓮聖人自身の滅罪）

『光日房御書』（武士の子の死）・『日本靈異記』 墮地獄の恐怖

◎これからの課題

・ 現代における国家諫曉……政府？ 一神教？ 価値観の違うもの？

・ 私たち自身（日蓮宗）？

・ 批判されなかった宗教

※修験道 神道

・ 国という字

・ 中尾堯文先生の解釈 ※第七番問答の問 「先祈国家 須立仏法」

むすび

・ 外に向かつてばかりでなく、自らを省みることに（懺悔滅罪）が『立正安国論』基底にある。

※辻説法はあったのか？

・ 折伏という真意を常不輕菩薩品から考えよう。

※『但行礼拝』……忍辱の鎧・

・ 封印説・無用論に対し、何故5・6本も認めたのか。最晩年、池上で
の講義。矢内原氏の言

・ 釈尊の遺言「法灯明」「自灯明」 薬草喩品の「三草二木の譬え」

・ 「私の立正安国」「家庭の立正安国論」……

・ 事行の南無妙法蓮華經